

## トンガ王国の小学1年生、6年生の歯科検診からの考察

○河村サユリ<sup>1, 2)</sup>, 河村康二<sup>1, 2)</sup>, 鈴木千鶴<sup>1, 2)</sup>, 飯田好美<sup>1, 2)</sup>, 竹内麗理<sup>2, 3)</sup>,  
遠藤眞美<sup>2, 4)</sup>, 田口千恵子<sup>2, 5)</sup>, 小林清吾<sup>2, 6)</sup>

<sup>1)</sup>カワムラ歯科医院 <sup>2)</sup>南太平洋医療隊 <sup>3)</sup>日本大学松戸歯学部薬理学講座

<sup>4)</sup>九州歯科大学学生体機能制御学講座 摂食機能リハビリテーション学分野

<sup>5)</sup>日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座 <sup>6)</sup>日本大学

**【目的】** 南太平洋医療隊は1998年よりトンガ王国でう蝕予防を目的とした学校歯科保健活動を実施してきた。JICA 草の根技術協力、フォローアップ事業とした活動はトンガ歯科スタッフの業務となり、トンガ全域の小学生が週1回のフッ化物洗口と、歯科保健指導を受けている。小学1年生、6年生の歯科検診を実施し、今後の活動方針を示唆した。

**【方法】** 2011年10月末から11月にトンガ王国全域の小学校93校にて1年生1554名、6年生1529名を対象に日本人歯科医師2名とトンガ人歯科医師2名とでキャリブレーション実施後、歯科検診を行った。検診は自然光のもと、ミラーと探針を使用、実施した。トンガ王国の就学年齢は1月1日時点での4.5才児、5才児、6.5才児である。11月末時点の暦令で1年生(5~7才)、6年生(10~12才)を対象とし分析した。

**【結果】** 初期調査の2000年12才児DMF指数は、男子4.10、女子5.48であったが、今調査では男子2.08、女子2.38であった。う蝕の軽減は現地歯科スタッフの自立した活動の継続によるものであると考える。

	男子				女子			
	年齢	人数	DMF 者率	DMF 指数	人数	DMF 者率	DMF 指数	
1年生	5	280	7%	0.07	240	11%	0.16	
	6	517	13%	0.19	482	19%	0.28	
	7	31	23%	0.32	32	34%	0.53	
6年生	10	145	57%	1.19	187	67%	1.56	
	11	451	56%	1.39	500	66%	1.77	
	12	134	65%	2.08	89	73%	2.38	

**【結論】** 現地歯科スタッフは支援から自立し、全域で活動していることが視える。